

川嶋渉展

Wataru  
KAWASHIMA

粒の表情 — 現象

particle expression  
— GENSHO —

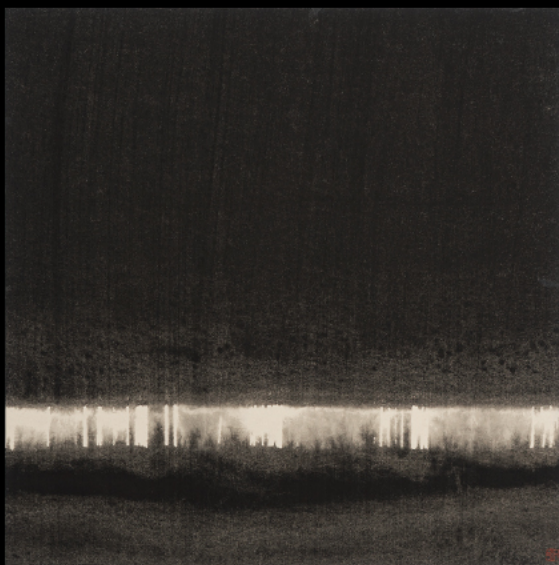
「応接間から出られなくなった日本画」

床間から応接間へと生き場を移した日本画。更なる心地良い場所へと彷徨い歩く。もっと軽やかであっても良いと私は考える。

川嶋渉

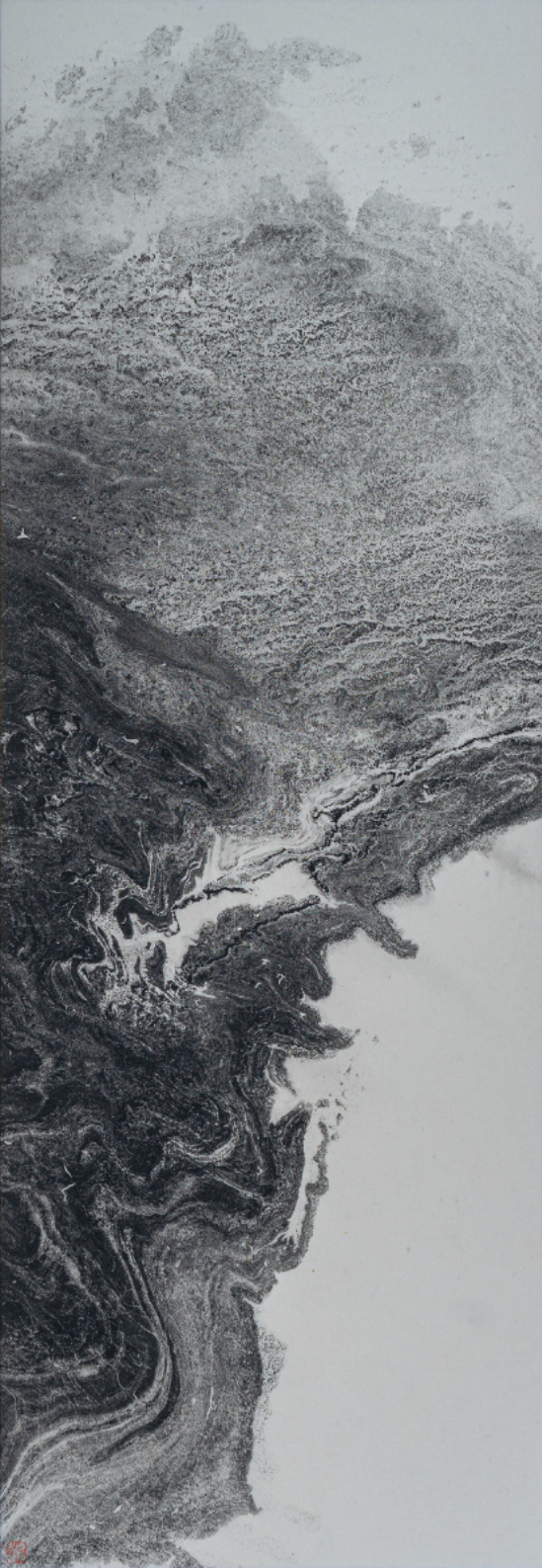


《現象No.15》90×61 cm | 楮紙/墨



《現象No.37》27.3×27.3 cm | 楮紙/墨





《現象No.27》  
45.4×15.8 cm  
楮紙／墨

「粒の表情—現象—」では、川嶋渉の日本画における新たな展開を目の当たりにすることができる。

2019年に行なわれた個展「粒であり波である」というタイトルにも登場する「粒」(絵の具の粒子)が、今回の展示でも中心的な役割を果たしている。粒子は、和紙や膠などと相互作用して一つの絵を、つまり、こちらに語りかけてくるようなたずまいを作り上げている。

川嶋の日本画に、鑑賞者はいろいろなイメージを読み取るだろう。しかし、これらの作品は必ずしも写実的ではないので、実際に読み取られる内容は一様ではない。仮にある作品を川だと大半の人が認識しても、それがどんな川であるかという具体的な内容は、その人の知識や経験、文化的な背景、感覚のあり方などによって違ってくる。

メディア同士がうまく相互作用する状況を設定することで生み出された創作物は、見る者の感性によって認識される。こうした制作—鑑賞のあり方を、川嶋は「現象」というカント(Immanuel Kant)的な語彙で捉えている。この展示空間にあるのは、そうした絵画の認識論に則ったアウトプットであり、これは近代芸術の常識を裏切っている。

近代芸術においては、「作品」という閉じられたイメージが前提されている。作者のコントロール下で「作品」は完成され、鑑賞者は閉じられた円を眺めるように完結した創作物を味わう。「作品」の秘密は、創造者たる作者が握っており、鑑賞者は、作者の殿堂に恭しく入り込んで秘密を読み解こうとする。

だが、そうした創造物だけが作品の名に値するのだろうか。作者の手だけで完結しない創作物も、作品たりうるのではないか。

川嶋の日本画作品は、それ単体で自存するものではなく、物質や人間といった他者との相互作用によってはじめて成り立つ—現象する—ものだとと言える点で、この問いかけの先に行こうとしている。

哲学者  
谷川嘉浩

## 川嶋渉展

### 粒の表情—現象—

particle expression —GENSHO—

2023年4月12日[水]—4月17日[月](最終日午後5時終了)

日本橋三越本店 本館6階 美術特選画廊

川嶋 渉 | かわしまわたる

1966年京都府生まれ。

1989年京都精華大学芸術学部 造形学科日本画専攻卒業。

京都在住。日本画家や書家が大量にいる家系で育ち、幼い頃より、美術品や本物の画材に触れる機会に恵まれる。

描くことに加え、その表現に必要な岩絵具、膠、墨、硯、筆、和紙などの画材をストックなまでに研究し、追求し続けている。

墨の世界に伝統的な日本画の概念を取り入れ、新しい表現に挑戦。

墨の「粒」で、豊かな表情を描く。

1996 日展特選 2002

2004 京都市芸術新人賞受賞

個展 日本橋三越本店 2007、2010、2014、2017

2006 京都迎賓館 作品制作

2016 室生寺 室生山水図屏風制作

2020 KYOTO STEAM2020国際アートコンペティション スタートアップ展  
(京都市京セラ美術館 東山キューブ)

2021 Lost in Translation (京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA)

現在 日展会員 京都市立芸術大学教授



上記コードでデジタルカタログを  
ご覧いただけます。

営業時間/午前10時—午後7時。

但し、本館・新館ともに1階・地下階は午後7時30分まで、新館9・10階レストランは午前11時—午後10時。



**MITSUKOSHI**  
日本橋本店  
www.mitsukoshi.co.jp

※諸般の事情により、営業日・営業時間、予定しておりましたイベントなどが変更・中止になる場合がございます。

必ず事前にホームページを確認してから  
ご来店ください。

〒103-8001 東京都中央区日本橋室町1-4-1 / 電話03-3241-3311 大代表 / 230435076320001

三越の美術

検索

<https://www.mitsukoshi.mistore.jp/nihombashi/shops/art/art.html>

作品につきましては、会前のご予約も承っております。掲載した作品が、展覧会初日に既に成約の場合がございますので、予めご了承ください。